

# 日経 **X**TREND

緊急アンケート 自由回答コメント

## Q2 「あなたの職場では、新型コロナウイルスへの対応でテレワークは導入されていますか？」で、「その他」と回答した人のコメント

- もともと事務系含めて全社でスーパーフレックスなので、イントラ入力さえすれば時差出勤や有給取得が可能。地方はマイカー通勤も多く、そもそも満員電車に乗る必要がない。テレワークについてはVPN構築など来年度から始まる予定だったが……
- 会社としてテレワークについての命令は出ていないが検討されている。実際はテレワークができるデジタル環境が整っていないから命令を出せないというのが実情
- 部署によって対応できるように準備している
- 一部業務をテレワークとすることを検討中
- 放送業務関係は編集機器が会社にしかない、お客様対応部署は個人情報を扱うため在宅テレワークに適していないなどの理由から、ケーブルテレビ局としては部分的にテレワークをすることしかできないが、業務種別によりテレワークの可否を分ける、ということは経営としては非常に難しい
- テレワーク以降のテストを行っている
- 社内に3/4より（学校一斉休校）子供預か1
- 子育てなどがある人の中で可能な人は、と限定
- 来週からテレワークを対応可能部署で開始する準備中。ただし、番組制作現場では、当然無理だが、感染者が出た場合は、テレビ会議だけでも使い、出勤者を減らさざるを得ない
- 希望者に対しては、可能な限り実施

## Q3 「新型コロナウイルスによって放送や番組に影響はありましたか？」で、影響があったと回答した人のコメント

- 放送内容の大幅な見直し
- イベント中止により連動の中継、特番の休止
- 通常の特集企画の見送りや総理会見の特番編成
- 情報番組の時間枠を拡大して情報発信を実施。知事や市長の会見のネット生配信を実施。情報番組の内容は連日新型コロナウイルス関連情報が中心となっている
- イベントの公開放送が中止になった。CMも（公益社団法人）AC ジャパンへの差し替えやキャンセルが相次ぐ
- 番組内容を変更、差し替えも
- 自社イベントの中止、番組の差し替え、CMの差し替えやキャンセルなど
- イベントの中止、その放送の中止。無観客収録
- 予定していたスポーツ番組が中止、ダイジェスト版を編成することになった
- イベント中止による収録中止と代替番組の放送、スポーツジムやビュッフェ紹介の放送延期
- 生放送の内容変更
- ディレクターが少し熱が出たことで、天気予報を代替なしで自動音声にした。通常は代替案が出されて放送している
- 放送と連動したイベントが先に中止になり、番組が移動となった
- 特番対応になった
- 急きょ、子供向けの番組を編成

## Q3 「新型コロナウイルスによって放送や番組に影響はありましたか？」で、影響があったと回答した人のコメント

- 番組（生中継）の中止、及びそれによる広告のキャンセル
- 通常は公開収録の番組を非公開・無観客で収録している。局主催の営利イベントの中止が相次いでいる。一部業種で出稿を見合わせるクライアントが出始めている
- 公開番組の無観客化
- 複数の番組で当初予定していた内容を差し替えた
- イベントの中止（放送にかかわらないものを含む）、ウイルスに関する番組の変更
- 取材対象のイベントなどが中止になっている
- 番組の中止
- ライブイベントや特番が中止になった
- 取材対象の変更など
- イベント中止などで、主に地元のCMのキャンセルが相次いでいる
- 観客は入れない、スポーツ・イベント関連番組は中止
- イベントがなくなり、取材予定が大幅な変更となった
- 番組内容がコロナ一色になった
- お客がいないと成立しない番組の延期
- イベントなどのVTRが放送できない。人が集まる場所のロケに行けない。番組観覧中止など

## Q3 「新型コロナウイルスによって放送や番組に影響はありましたか？」で、影響があったと回答した人のコメント

- 海外取材自粛や、「街ブラ」取材の制限、主催イベントの中止やそれに伴う番組の休止、スタジオ収録番組の客入れ中止、旅行・テーマパーク等のスポンサーのCM自粛
- 無観客での収録、生番組の中止
- 生放送の中継パートが中止となり、大部分が過去のミニ枠番組の総集編に差し替えられた。スポーツ中継（収録放送）を予定していたが、スポーツ自体が中止（延期）となり、番組差替となる
- 番組構成というのではなく、番組送出の継続のための各人の健康の確保に神経をとがらせている
- スポットCMのキャンセルが出ています。イベントが軒並み中止になっているので、ローカルニュースの構成に苦慮している部分があります
- 客入れ収録を、客なしに

## Q4「新型コロナウイルスによって視聴率には変化がありましたか」で、その理由についてのコメント

- 在宅者が増え、HUT が上がったためと考えます
- 目に見えない恐怖心がもともも強くある中、一斉休校、買い占めなど社会的な目に見える影響がはつきり出てきたことが相まって、視聴者の関心が極めて高くなっていると思います。同時に、ネットニュースで絶えずチェックしつつ、総まとめとしてテレビで確認するというサイクルになっているのではないかと思います
- ニュースや情報番組に関しては新型コロナ関連で視聴率が上がっている
- 在宅率の向上による HUT の向上と推察
- 地区全体では HUT が上がったような印象を受けます（26 週地区のため 3 月 2 日以降の数字ですが）。ただし、自局は子どもや若い人向けの編成ではないので、視聴率が顕著に上がったという感じでもありません
- 日々の生活に直結するのでニュースへの関心が高い 在宅率もアップか
- 3/2 から数日だが午後帯の HUT はちょっと上がったような感じがする・・・
- ニュース番組の視聴率が上昇
- 裏局がニュース番組をやっている
- 新型コロナウイルスに関するニュースを取り扱ったから
- 在宅率が上がった。信頼できる情報が求められた
- 外出など控え、在宅率が上がったため
- 新型コロナウイルスが影響したかどうかわからない
- 社会的関心の高まりと在宅率の上昇に伴うテレビ視聴の増加
- 報道番組の視聴が増えた

## Q4 「新型コロナウイルスによって視聴率には変化がありましたか」で、その理由についてのコメント

- テレビ視聴率に営業はないがインターネットトラフィックは急激に伸びている。OTT、YouTube の伸びは顕著。あとプレサービスで始まっているNHK プラスのトラフィックも始まったばかりとしては目立っている
- 報道番組に対して注目度が高まっている
- 自宅にいる人が増えているので
- 23 時くらいまでのニュースが異常に高い
- ニュースへの関心が高まった、在宅率が増えた
- 在宅率が増え、コロナウィルス関連の情報への関心が増しているから
- 情報報道番組の数字は明確に上がっている。HUT も若干上がってると感じる（特に全日）
- 在宅率が高まったため。ニュース番組への注目度の上昇
- 「新型コロナウイルス」への関心の高さ（報道関連番組の視聴率）と、外出を控えたことで在宅率の上昇（HUT の上昇）
- 在宅率の上昇、新型コロナウイルス情報のニーズ
- 在宅率が上がったと思う
- 在宅率が高くなり HUT が上がったことと、コロナへの関心からニュース系番組の視聴率が上がってます
- 報道情報系番組での新型コロナウイルスに関する情報提供に関心が高まっているから
- 報道情報番組の視聴率は上がっています。NHK ニュースの裏番組は下がっています
- 子供や在宅勤務などで、HUT / PUT が増加傾向のため
- ニュース、報道系番組の視聴率があがるのは当然

## Q5 「新型コロナウイルスについての報道について思うところがあれば書いてください」（自局他局問わず）

- 適正な行動指針を冷静に伝えることが大切
- 番組の性質にもよるが、どこも似たような内容ばかりで暗くなる
- PCR 検査の議論が象徴的だと思いますが、必要とする人への検査とパニックを引き起こしてはいけないという、いわばどちらも正しい視点のバランスが非常に難しいと感じています。専門家の方もやはりどちらかのスタンスに属する傾向があるのも非常に悩ましいです
- 危機感をあおったり、政府の方針を垂れ流すような内容ではなく、適切な対処の仕方などを検証することが求められているように思います
- 未知のウイルスなので専門家でもさまざまな意見が出ており、PCR 検査の是非や学校の休校、ダイヤモンドプリンセスへの対処など有識者のコメントもかなり違うと思う。インタビューやゲスト出演した医者によって番組のトーンが随分変わってしまう。両者の意見をなるべく並列するしかない
- マスコミがあおるのはいけないとか言うが、新型コロナウイルスのニュースを全く伝えないわけにもいかない。伝えないと初期の中国の武漢になってしまふしフェイクニュースやデマの打ち消しは必要
- トイレットペーパーなど十分にあることはかなり報道され、マスクの効果についても感染者側がつける以外の効果が薄いことも結構言っていて、不安をあおるばかりでもなく、バランスはとっていると思う
- SNS やテレビがあおるからいけないとデマを拡散している人たちと一緒に批判してほしくない
- 情緒的な内容の放送が多いように思う
- 必要な情報だとは思いますが、他局との差をつけるのが難しい
- 政府への批判よりも可能な限り情報公開を訴えて国民が対策を講じるなど役立つ情報発信を第一にすることを、繰り返し行うことが必要

## Q5 「新型コロナウイルスについての報道について思うところがあれば書いてください」（自局他局問わず）

- トイレットペーパーの件、騒ぎすぎかと
- 専門家のウラを取らずに放送しているキー局があった。内容としては、PCR検査をしてもらえないことを患者側の声と開業医の声として放送。両方を取材しているように見えるが、なぜ検査していないのか本来の検査の基準などが放送されていなかった。  
これらについて、国立感染症研究所が誤認報道について声明を発表していた。医師の一部の人が、これらの報道に対して、マスゴミといい、SNS上で、BPO や視聴者センターに言うべきだと発信していた。  
また、テレビ局に出演する感染症の専門家と称する人たちの中には、売名行為の人もいるように思われた。あたかも全員がそう思っているかのように話をしていることで感染症の専門家からは、残念な声が聞かれた
- 政治利用されないようクロスチェックしたい
- 報道過多になっている気がする
- 「○○という情報はデマです！注意してください！」という報道よりも、「○○という情報について確認したところ、実際は××ということでした。VTRをご覧ください」というような冷静にデマを打ち消す内容の報道の方が、視聴者に求められていて、デマを信じて拡げた人も納得するのではと思うのですが、即時性、正確性を強く求められる時代に取材の人的リソースも不足していて歯がゆいところです。納得するのではと思うのですが、リソース不足だとも思います
- 紙類やパスタの買い占めなどの例を見ると、SNS 上でのデマ情報に報道は太刀打ちできていないと感じた
- 新型コロナウイルスは「あまり恐れる必要は無い」なのか、それとも「未知のウィルスなので十分に注意すべき」なのか、専門家の意見がバラバラである印象があります

## Q5 「新型コロナウイルスについての報道について思うところがあれば書いてください」（自局他局問わず）

- ・過去に例のない長期間の感染症報道であり、一つひとつの判断が試されている
- ・過剰であり、民放局のワイドショーは視聴しないようにしている。必要な情報は自身で調べて入手している
- ・初めてのケースで戸惑いながら報道をしており、こういう場合の適切な報道は何なのか、事後検証が必要だと思う
- ・感染者に直接取材すると濃厚接触者になるので悩ましい
- ・感染者情報に偏重しがちで治った患者の情報とかも報道すべきではと
- ・加熱しているが、先日くらいからやや落ち始めている。少し慣れてきたのか。。
- ・重要な情報源であることを自覚し、何回も特定の事象を報道することで「アナウンス効果」が出てしまうことを強く自覚し、信頼性の高い報道を堅持すべき
- ・全体像を報じようとしなくて、自分の主張のためにつまみ食いの報道があるのは残念
- ・感染者数にこだわりすぎて、先が見えてこない
- ・あちこちの番組で日々、新たな医療従事者や研究者がコメンテーターとして出演しているが、どのような基準で出演してもらっているのか、その人が言ったことに対して放送局としてどこまで責任を負うべきかの議論が各局でされているのかは気になる
- ・専門家が多すぎ。誰の意見を信じればいいのかわからない
- ・取材することで感染してしまわないように気を付けないといけない。デマによるトイレットペーパー不足を取材・放送することで、それを助長することのないように努めないといけない。（あおらずに伝える）。テロップなどの色や字体でも、いたずらに恐怖心をあおらないように気を付ける

## Q5 「新型コロナウイルスについての報道について思うところがあれば書いてください」（自局他局問わず）

- ある局がクルーズ船下船客の救急搬送をヘリ空撮で生中継していたが、人権面や社会性の観点から考えるとそれを生中継する必要があったのか。人権への配慮はもとより、事実の羅列と考察だけではなく、これまでの経緯や最新情勢、ネットデマの否定など、これまでの価値観にとらわれないなにか新しい「情報」の伝え方を編み出す必要性を感じる
- デマによるトイレトペーパーやティッシュペーパーの買いだめを、ますますあおるような方向で報道されていたと SNS で複数の意見を見かけたのは残念に思えた
- 海外メディアの報道にくらべ、日本の報道は政権よりな報道だと感じる
- 感染の拡大に関して厳しい局面が続いているが、内容面についてはもちろんだが、報道する時間尺について、適切な長さはどのくらいがふさわしいのか難しい面も多いと考えている。例えば、キー局発の報道情報番組で、連日、特番編成のような趣で放送しているケースがよく見られる。国民的関心事で長尺は当然と思いつつも、ファクトの紹介と論評のバランス、何よりも感想の多さに違和感を覚えることも少なくない
- 局によって温度差がありますが、それも含めて選択になりますので良いと思います
- 危機感を啓蒙することは大事だが、実際の重症度からすると過剰に反応し過ぎと思う。最悪の事態を想定する必要はあるが、政府もそうだが専門家も危機感をあおり過ぎ
- 収束に向けた対応や、何に備えるべきかを丁寧に報道する必要がある
- デマを打ち消すような「トイレトペーパーの在庫確認など」事実を分かり易く伝え、冷静な対応を求めるべきである
- 致死率の客観評価がなされていないのが残念。共働き家族への取材と言っても、富裕層側とみられる家族への取材が目立ち、吐きそう。主婦家族への取材が全く不十分で残念。こんな報道があふれること自体に、新型コロナウイルスよりも危機感を覚える

## Q6 「新型コロナウイルスと放送業界に関連して思うところがあれば書いてください」

- 地域で連携する必要性や、局として何をやるべきかをきちんと打ち出せるか、差が出ているような気がする
- 電通、資生堂の出勤停止の影響が大きい。1つの指針になっている
- 各部署において隔離して勤務する有事チームを編成するなど働き方は今までになく大きく変わっています。その一方、ただでさえ悪かった広告市況がさらに下振れすることは必至で、いろいろな意味でターニングポイントとなる出来事のような気がしています
- キー局などではテレワークとなった局もあり、業界としてテレワークが広まること、各局がBCPを策定するきっかけになればと思います。一方、地方局では人員が限られていることから、感染者や濃厚接触者が出て自宅待機になった場合、番組の休止や、最悪の場合、放送の継続にかかわる事態となることから、会社でも対応を検討はしていますが、まずは感染を避けるという対応しかできていないのが実情です
- 感染者が出た場合、フロアや全社を閉鎖できないかと… どう放送を継続するか難しい
- BCPやテレワーク、会議の在り方や働き方改革など一から見直すいい機会ととらえるしかない
- HUTがすこし上がっても、企業活動が停滞するとCM出稿も手控えられるのでプラスのことは何もない
- 情報発信するメディア側（各局の報道制作現場）がどのような感染防止対策を行っているか知りたい
- 通常、感染症は医療として報道しているが、パンデミックになれば防災対応になる

## Q6 「新型コロナウイルスと放送業界に関連して思うところがあれば書いてください」

- 地震や災害の場合は、報道機関は訓練しているが、感染症パンデミックに対して報道機関は、訓練していないため、ワイドショーの対応は、不安を煽り、国民の混乱を招く報道となっている。報道機関として、リスクコミュニケーションについて勉強すべきだと思った
- 信頼性、速報性をアピールして、メディア内での価値の向上につなげたい
- キッズステーションさん他、休まなければならなくなった子供たち（と親御様）に向けてコンテンツをうまく寄せて行っているメディアが多い中、Eテレさんは対応しておられるようですが、地上波放送局はなかなか大きな戦略が取りにくいところですね
- 疫病は疫病、政局は政局、報じるべきは報じなければならないが、何でもかんでも関連付けて報じる悪癖は改めるべきだと思う。  
また、患者数も死者数もインフルエンザの比ではないくらい少ないのに過度の報道となって恐怖をあおっている面は否定できない。報道担当の中には「インフルはワクチンもあるし効く薬もある。コロナは未知の疫病だから大きく報じるのだ」と言う者がいるが、「インフルはワクチンも特効薬もあるのにこの患者数と死者数」と考えればどちらが脅威かは分かりそうなものだが、時には冷静な視線も必要
- 世間を混乱させることのないよう、冷静に正しい情報を報道するしかないと思います
- 今回自粛された広告が沈静化後ちゃんと戻って来てくれるのか心配である
- NHK プラスの開始が社内的に興味を引かなかった感じがします
- 事務方やデザイン系に関しては時差通勤、テレワークなどすでに一部実施していたりするが、生放送にかかわる部分でいうとなかなか実施が難しい
- インフルエンザとの本当の違いを伝えるべき

## Q6 「新型コロナウイルスと放送業界に関連して思うところがあれば書いてください」

- コロナウイルス禍は社会・経済にさらに大きな、深刻な影響を与えていくだろうが、放送の果たすべき役割を自覚し、社会的使命を果たし続けるよう、民営企業としては苦しい状況に直面しても頑張っていかなければならない
- 卒業式や児童向けの番組が作れないか、検討中
- 感染症に関する BCP が完全にはできていない
- 街ブラやグルメは情報番組の主軸だが、明るく楽しくグルメ店を紹介する映像など世の中の空気感や現実とは乖離があるように感じる。視聴者の心が離れていくのではないかと危惧する
- 「テレビジョン」「テレフォン」「テレパシー」の「テレ」は「離れて」という意味なので、その意味では「テレビ」は昔から「テレワーク」をしている。「離れて伝える」仕事という形態は今後どうなるのだろうか？
- 短中期的な営業収益が不安。この機に、放送界・地上波への信頼が向上する情報発信の方法を模索すべきだと思う。テレワークの推進で働き方改革の方向性にいい影響が出れば良いと思う
- 小中学校の一斉休校があり、子どもたちにテレビを見てもらうチャンスであったが、自社の編成は「テレビの若者離れ」が進んでおり、その受け皿になれないのが残念である
- 長引くとローカル局にとっては経営に影響が出てくる恐れもあり、不安はあります。新年度に予定した新規事業も動きにくくなっている雰囲気は感じます
- 経済の停滞に伴う、広告収入、イベント収入の減少は言うまでもない
- 新たな情報伝達手段として「同時配信」への機運の高まり
- 全国ベースの災害への放送の果たす役割の再認識
- テレワークに代表される社内 IT 化、DX 化の加速